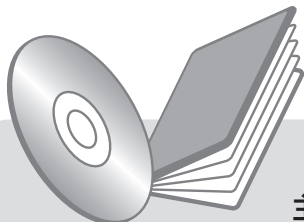


活用してください!今を生きる世界の子どもたちの記録

「ようこそぼくらの学校へ」

DVD+BOOK



紹介されている8つの話の主人公たちは、今、それぞれの国で、生きている子どもたちです。自分が置かれている困難な現実と向き合い、希望を見出そうと一生懸命です。ユニセフは主人公たちが参加する学びの機会を支援する活動を行っています。

子どもたちは、自分にできることは精いっぱい自分

の生きる姿を見せるだけと思っているかのように、自分の生活をありのまま見せています。

その生きる姿は、私たちに自分を省みる機会と、強く生きる勇気を与えてくれます。

きびしい環境に生きる子どもたちが希望に向かって生きていくためには、「学校や学ぶ機会」を得ることが何より大切であることを改めて深く考えさせられます。



アフガニスタン・カンダハール
「もう一度、学校に行きたいな」

タリバン崩壊後、女の子も学校へ行けるようになりました。マリム（10歳）は親戚の世話になりながら母親、兄2人、妹1人と生活をしています。文房具もかばんも持っていないでも学校に行けると知って大喜び。でも勉強についていけないことを先生に注意されたマリムは学校を休み、家で勉強をしていました。無断で学校を長く休むと退学になると言われたマリムですが、校長先生に家で勉強を続けていたことを一生懸命に説明し、学校に戻ることを許してもらいます。



シエラレオネ
「ボクは兵士だった」

シエラレオネの内戦は10年間にも及びました。両親を反政府軍に殺され、拉致されて兵士にされたムリア（13歳）は、「藪の殺し屋」と恐れられた少年兵でした。目の下の三日月形の傷は麻薬をうめ込まれたもので、洗脳され、恐怖心を麻痺させて戦場に送られました。今は神父と元少年兵の仲間と生活しています。麻薬を絶ち、多くの人の命を奪った事実に向き合って祈り、新しい人生のために学校で勉強し、職業訓練に励んでいます。

この他に6話が紹介されています

- ◆アフガニスタン・カブール「ユニセフがやってきた!」
- ◆アルゼンチン「もうストリートチルドレンにはもどらない」
- ◆エストニア「麻薬はもういらない」
- ◆ザンビア「エイズを治してまた遊ぼうよ」
- ◆ロシア・チェチェン「列車のなかがわたしのうち」
- ◆イラク「みんなの笑顔を見せて」

こちらはビデオ版です。ビデオ版は6話収録（アフガニスタン・カブール、イラクを除く）になります。



学習を深めるための
BOOK (解説書) が
ついています

それぞれの子どもの状況の補足説明や、歴史的背景、関連情報、統計資料などがわかりやすく全ページカラーで紹介されています。授業でも有効に活用できます。

「ようこそ ぼくらの学校へ」は
(財)日本ユニセフ協会が監修協力をしております。

入手希望のお問い合わせ先：NHK出版

☎03-3780-3339

FAX 03-3780-3350・3351